

## 令和7年度 第1回苫小牧市総合戦略推進会議 議事録要旨

- 【日 時】 令和8年2月5日（木）15:30～17:00
- 【場 所】 苫小牧市役所5階 第2応接室
- 【出席者】 奥村会長、荒川委員、五十嵐委員、工藤委員、五嶋委員  
佐藤委員、瀧川委員、中村委員、長山委員、成田委員、西山委員
- 【事務局】 苫小牧市 総合政策部 山田部長、  
政策推進室 茶谷室長、  
政策推進課 大宮課長、水谷課長補佐、佐久間主査、林川主査

---

### 議 事 次 第

---

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 議題
  - (1) 第2期人口ビジョン及び総合戦略の検証について（報告）
  - (2) 今後の総合戦略について
  - (3) 意見交換
- 4 その他
- 5 閉会

### 3 議題

#### (3) 意見交換 (質疑を含む)

##### < A 委員 >

子育てについて、国や苫小牧市から子どもに対して支援が増えてきた。出産についても、もう1人頑張るという方が増えてきたと思うし、最近話を聞くようになった。一方で、高齢者も長生きする方が増えてきているが、亡くなっていく方も多く、人口は減ってきている。苫小牧市は子育てをど真ん中にしたまちづくりを謳っているが、高齢者も大事にしてほしいと思う。

また、札幌の方からは雪が少なく感激したという話を聞いた。苫小牧の西側は樽前山や公園もあり、なにより景色が良い。そういう意味では、苫小牧は本当に誇れる街だと思う。

さらに、ファイターズ二軍本拠地の誘致を頑張りたいと思っている。人口も増えるし、若者も増える。苫小牧はスポーツ都市なので力を入れていけたら良いと思う。

##### < B 委員 >

人口増加率の推移について、函館市の減少率が留まっているように見えるが、何か情報を持っていれば教えていただきたい。また、今後の総合戦略について、苫小牧市が現時点において特に力点を置きたい項目や目指すべき方向性があれば教えていただきたい。

昨年あたりから多文化共生の推進の色が変わり、世論としても外国人に大変厳しい状況になっている。その先にあるのは国が押し進めてきた実質移民だが、苫小牧市民であることに変わりはなく、就労している方々は税金も納めていて、住む権利もあるが、外国人住民に対する批難などによって、住みづらさを感じて今後苫小牧を出ていくのではないかと心配している。苫小牧市は男女平等など、様々な多様性を受け入れる街と認識している。

また、若者の流出については、他都市の大学に行くのは当然のことだと思う。Uターンの施策などをもっと打った方が良いのでは思う。

##### < 政策推進室長 >

このグラフは減少幅を示すグラフになっている。函館市は横ばいであるもののマイナス1.5%は減り幅が一番大きいところ。函館も釧路も合併したところは、減っている印象はある。

##### < 政策推進課長 >

特に力を入れていきたい点については、今後皆様のご意見を踏まえながら考えていきたい。国においては地方に活力を取り戻すということを目指して、強い経済の実現を地域未来戦略として発信している。国においてはその戦略を来年の夏にまとめるとされている。

また、先程苫小牧の良いところを仰っていただいたが、そういった特徴を武器にして、人口減少の抑制につなげていけたらと考えている。国の地域未来戦略の動向を注視しながら考えていきたい。

#### <C委員>

苫小牧の企業は、中小企業が多く8～9割を占める。大手企業が去年5%以上の賃上げをしているが、それに対して中小企業は2～3%に届かないところが多々あり、そこが足を引っ張っているところもあるかと思う。分析すると適正な価格転嫁がされていない。大手企業が安いものを入れていく中で、中小企業は交渉しても取引されないといったこともあるため、中小企業に対して支援が必要であると考えます。

また、ワークライフバランスについて、未だに進んでいないことが問題だと思う。企業に対して聞き取りをし、挺入れをしていくことも大事だと思う。子育てしている中で、保育園から急遽来てくださいと言われてもなかなか行けない。そういった企業はたくさんある。市として、企業がどう困っているのかアンケートでなく、出向いて聞き取りをしてほしい。また、保育所などは、全て無償化を財源も含めてやっていかないといけない。市もしっかり考えていただき、今後とも進めていただきたい。

#### <D委員>

ワークライフバランスを改善するためには、ITの力でDXすることを推進していく必要があると思う。教育とITが総合戦略では弱いと思う。一貫して教育とITの推進が必要な時代になってきていると思う。苫小牧市は工業都市でAIの誘致も進んでいる。大きな企業とスタートアップなどの小さい企業でもつながることが出来れば、人を呼び込む力になっていくのではないかと思う。

また、人口増加率について、帯広市が上がっているが、インターステラ社が帯広に二社目を作ったということもあり、人が増えている流れがある。新しい産業がこれから必要になるので、地場産業も少しずつ大きくなるような取組を作っただけだと思ふ。

さらに、ファイターズ二軍本拠地の誘致も進めてもらいたいが、札幌から苫小牧まで電車だと時間がかかるため、すぐに来られるようになると嬉しい。苫小牧のMaaSは素晴らしいとお聞きするので、このまま進めていただきたいと思う。

#### <E委員>

昨日、Youtubeで北海道第二の都市はどこかという番組を見たが、結論は苫小牧だった。人口だけではなく、総合的な観点から調べられていたが、製造品出荷額が道内1位であること、取扱貨物量が日本のトップクラスであることなどから、苫小牧市が第2の都市であろうとの結論だった。

一方で、観光が弱い。やはりファイターズ二軍本拠地を苫小牧市に誘致し、街の中心部

にできたら、目玉になると思う。経済効果や現状の課題を全て解決するのが、この誘致の取組ではないかと強く思う。ラストスパートなので、熱量を持って、アピールすることができれば良いと思う。一番は、道内のローカル番組で注目されること。苫小牧市に移住したいとか、戻ってきたいとか、街の魅力を伝えるとか、こういったことが今回の誘致で解決するような気がしている。商工会議所が一生懸命やっているが、苫小牧市も熱量を入れて、本当に来てほしいという想いを、伝えていただきたいと思う。

#### <F委員>

経済や社会が成熟している日本において、自然増減を反転させるのは、非常に難しい試みになると思う。社会動態をどうプラスに持っていくかが必要だと感じる。新卒採用の採用活動についても、近年、非常に環境が変わっているのを感じており、新卒者の採用に苦戦している。産業構造の変化が急速に起きていることを想定すると、苫小牧における基幹産業や、それを支える周辺産業の変化は、興していかないと社会増減に与える影響は、将来的にはマイナスの圧力が掛かると想像している。苫東地区に大きな企業の進出が起きていることを考えると、その機会を逃さないように、新たな産業を苫小牧に根付かせるような施策を打っていく必要があると思う。働き盛りの世代が先行するような産業が苫小牧に増えてくると、社会増減としては非常に強いものになると考えている。

#### <G委員>

採用面では、理系人材の確保が難しくなり、文系人材へのシフトが余儀なくされている。加えて、ラピダスやデータセンター関連事業の進出は地域にとっては喜ばしい話である一方、企業側にとっては人材確保の面で更なる厳しさが想定される。

さらに、キャリアアップを目的とした札幌・東京への人材流出も続いており、雇用面での人口減への対応が一層求められている状況である。

また、この5年ほどで、40～50代の社員の中に、生活習慣病等により職場復帰が困難となるケースが増加しており、労働力確保の課題も発生している。加えて、専門家の見解では、AIの普及に伴い事務職の仕事が将来的に減少するとの見通しも示されており、雇用と仕事をどのように確保していくかが重要な課題となっている。市の取組だけに依存するのではなく、企業側も主体的に努力を重ねなければ、人口減への対応は困難であると改めて認識した。

#### <H委員>

出会いに関する施策は伸びていない印象があり、伸び代を感じた。FMとまこまいでは、出会いに関する3つの番組がある。出会いたいけど出会えない人たちが、苫小牧にもまだいると思う。市との連携や、企業からのご支援があると、成果につながっていくと思う。

また、市内に住んでいる子どもがいる家庭で、暖房がない家が相当数ある。FMとまこま

いで「暖房を譲ってください」とお伝えをしたら、10台の暖房が寄せられ、ラジオの力を感じた。育児で困っている家庭が苦小牧にはたくさんあり、それを受け入れる施設が苦小牧に足りないということも聞いた。産まれた子どもを大事に育てるのも、公共機関や市民、地域の役割だと思う。

さらに、コワーキングは転換期にあり、老舗のコワーキングが閉業することになった。現状は、空き地ばかりで開業できるような受け皿がない状況。例えば、空き地があれば、上が住宅、下が店舗のようなものをいくつか建て、そこにお店、企業を誘致するなど、大きい企業だけではなく、バランスの取れた社会を作り上げるのに良いのではないかと思う。

#### < I 委員 >

西側の商店街の減少、高齢者の買い物難民、車を運転できる方がいなければ買い物すらできない。移住の条件としては、買物環境が整っていること、医療が安心できることが必要ではないか。

また、生活にゆとりがない。買い控え、我慢といったことが浸透している。売上は上がらず、人件費の下敷きになり、人員不足により閉業しているところが散見されてきている。子育て世代を支援して、産みやすく、育てやすい、この辺が安心できなければ育てられない。データセンターなどIT企業が色々と来ている。そこで働く人たちを苦小牧で調達できれば、越したことはないと思う。

さらに、ファイターズの二軍本拠地はまちなかに来てほしい。3月1日に市民文化ホールがオープンする。大きなイベントを呼んで、JRで苦小牧に来ていただき、駅前通りを歩いて市民文化ホールまで行っていただく流れが理想。札幌は雪がひどく移住もチャンスなので、苦小牧は住みやすく働きやすい街ということを発信していただくと良いと思う。

#### < J 委員 >

青少中学校はマンモス校で、一学年7クラスある。人口減少といってもそこまで実感がなかった。西側の学校は1クラスしかないと聞いたこともあるので、人口減少を地域別で分けると、偏りが見えるのではないかなと思う。

仕事について、現在は辞めており昨年から家にいるが、子供は喜んでくれる。その点はすごく良かったなと思っている。それが子どもを産むことにつながるかという別の話かもしれないが、もっと働きやすい環境が整っていると、お母さんも働きやすく、子育てもしやすくなる。そんな状況が出来上がるのではないかと思っている。

#### < K 委員 >

市の統計書で2014年と2024年の比較が出ており、減ったのは、出生率、婚姻率、市バスの乗客者数、JRの乗客者数、フェリーの乗客者数、医者、世帯数、図書館の貸出数など、10年間で減っている。一方で、増えたのは、観光客数、お酒の量、市税、市予算が増えて

いる。財政力指数は北海道の中で苫小牧は2位。一方で、住みやすいまち、住み続けたいまち、若者が来たいと思う街のトップ10にも50にも入っていない。その原因は、交通の便が悪いとか、老人に厳しいとか、東と中央と西で政策を変えた方がいいとか、様々なことが見えてくる。交通に関しては、ニセコモデルというタクシーの新しいスタイルが成功している。本日様々な意見があったが、苫小牧らしさの地方創生ができれば良いと感じた。

#### <総合政策部長>

総合戦略推進会議は、委員の皆様の意見を聞く時間を大事にしている。厳しい意見もいただいたが、苫小牧愛の表れだと受け止めており、少しでも反映できたらと思う。ファイターズ二軍本拠地の誘致についても何とか成し遂げたいと思っている。できる範囲の提案をし、なんとか勝ち取りたいと思っているので、引き続き応援していただきたい。

苫小牧市は話題が多く、恵まれた自治体だと感じているので、これらをさらに生かしていかなければならないと思っている。危機感を持って人口減少対策に取り組んでまいりたい。

今日いただいた意見は、市役所内で共有させていただく。今後も様々なご意見いただき、よりよい苫小牧を作っていきたいと思うので、引き続きご協力をお願いしたい。